



西牧大使とプレス一行を躍動的な民族ダンスで歓迎する生徒たちと伝統的呪術師(ナミビア最北東部地域への草の根支援)

令和5年1月25日～27日、当館は「開発協力プレスツアー」を実施しました。ツアー参加者は、当地の主要メディア3社(Namibian 紙&Desert Radio、Namibian Sun 紙、New Era 紙)からそれぞれ記者1名、大使館より西牧大使他2名、合計6名でナミビアの首都ウイントフックからツアーに出発しました。視察先では更にナミビア国営放送(NBC)も取材に加わりました。

視察地はナミビア最北東部のザンベジ州における2か所(大使館が実施する「草の根無償資金協力*」に係る引渡式及び署名式兼起工式)で、それぞれの視察案件の概要とプレス取材振りは以下のとおりです。

なお、本プレスツアーの目的は、当国世論に大きな影響力を有する当地主要メディアを通じて我が国の支援につき報道してもらうことにより、ナミビア国民への対日理解・我が国の支援への理解の向上を目指すものです。

今回のプレスツアーについての報道件数は、テレビ、ラジオ、新聞、フェイスブックによるものを併せ合計10件となり、NBC は、ニュース番組でナミビア全国に本件を報じました。

*「草の根無償資金協力」とは、草の根・人間の安全保障無償資金協力(以下「草の根無償」という。)は、人間の安全保障の理念を踏まえ、開発途上国における経済社会開発を目的とし、地域住民に直接裨益する、比較的小規模な事業のために必要な資金を供与するものです(供与限度額は、原則 1,000 万円以下)。

(以下参考)

https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shimin/oda_ngo/kaigai/human_ah/index.html



新校舎の除幕式に臨む西牧大使とニーボンダ教育・芸術・文化大臣、ほか(新校舎前で撮影)



旧校舎・外観



新校舎・外観(ナミビアと日本の国旗が描かれている)



旧校舎・内観



新校舎・内観(後方右から、西牧大使、教育大臣、州知事)

案件の社会的背景・ニーズ

マルドゥ前期小学校は1994年に校舎1棟3教室、1倉庫の学校として創設されました。教員用の執務室はなく、倉庫を教員が会議室兼執務室として利用し、屋外で執務にあたることもありました。ナミビアでは、人口増により、就学児童数は増加を続けており、同校では教室数が不足し、泥で建てられた簡易教室での学習を余儀なくされていました。

さらに第5学年への進級の際は、教室不足のため同校ではなく、2. 5km離れた他校へ転校せざるをえず、さもないとば初等教育の継続を断念せざるを得ない状況でした。

案件の概要・目的

新規校舎1棟(3教室1倉庫(コンクリートブロック造: 189. 2㎡))を建設し、マルンドゥ前期小学校の教育環境の改善に寄与するため。なお、本案件の供与額は65, 620米ドル。

期待される裨益効果

本件実施により、泥造りの教室で学習していた第3学年及び第4学年の児童が適切な教室で学習することが可能となり、教育環境が改善されるだけでなく、同校の教室不足のため毎年転校あるいは、初等教育継続を断念していた児童が引き続き同校で第5学年への進級が可能となる。

メディアが取材した同校引渡式の様子

ニーポンドカ教育・芸術・文化大臣はスピーチの中で、マルンドゥ前期小学校は、草の根無償資金協力が1997年にナミビアに導入されて以来、61番目の被益校であり、日本政府によるナミビアの教育・社会開発への継続した貢献に対し感謝を述べました。

西牧大使はスピーチで、生徒、地域住民による歓迎(歌・踊り等)には真に心を打たれた、草の根無償資金協力により、同校の開校以来30年ぶりに新教室が建設されたことで、生徒の学習環境が改善されることを喜ばしく思うと同時に、本日の引渡式を契機として日本に興味を持っていただき、学業に励み将来、日本を訪れるような生徒が現れることを期待する旨述べました。



草の根無償資金協力（署名式兼起工式）

②令和4年度草の根無償「ザンベジ州カッベ南地区インパリラ小中併設校教室建設計画」



（左から）西牧大使、教育大臣、州知事



スピーチ中の西牧大使を取材するメディア



スピーチを行う教育大臣(大臣の袖に日の丸が見える)



贈与契約書の署名を交わした西牧大使と学校長



新校舎建設予定地での起工式準備を手伝う生徒たち

起工式を執り行う西牧大使、教育大臣、州知事、ほか

案件の社会的背景・ニーズ

ナミビアの最北東端に位置し、ザンビア・ジンバブエ・ボツワナ・アンゴラと国境を接しているインパリラ小中併設校は、公立初等・中等教育機関（第0学年～第9学年）であり、インパリラ島と周辺の氾濫原の村落の児童を受け入れています。1966年に小学校として設立以来、第1～第12学年生を対象とする学校として発展しましたが、教室不足が原因で、2017年以来第9学年までしか授業を行っておらず、過密状態のクラスが大多数です。同校で初等教育、前期中等教育を卒業した児童が後期中等教育を継続して学習するためには、最短でも62km離れた別の村に所在する後期中学校に進学するか、132km離れた州都に住み込みで進学するかの選択肢しかありません。経済的に困窮する保護者には財政的な余裕がなく、後期中等教育を継続できない児童が同島及び周辺村に増加しており、職業訓練校や大学等に進学するための修了資格を得られず、就職の機会を得ることが難しい若者が増加しつつあることが深刻な社会問題となっています。

案件の概要・目的

インパリラ小中併設校に新規校舎1棟（コンクリートブロック造：245.1㎡、4教室、1倉庫）を建設することにより、後期中等教育の授業を段階的に拡大することを可能とするものです。なお、本案件の供与額は56,480米ドル。

期待される裨益効果

本案件実施により、進学先を確保することが困難であった同島及び周辺の氾濫原の村落の児童に、後期中等教育も一貫して同校で学習することが可能となる。

メディアが取材した同校引渡式の様子

ニーポンドカ教育・芸術・文化大臣はスピーチで、ナミビア全土に共通する教室不足の問題により、同校も現在前期中等教育課程でまでしか授業を継続できておらず、生徒たちは学業を継続する為に遠距離通学を余儀なくされ、ドロップ・アウトする生徒も多く存在するところ、日本政府は生徒の人生を変える温かい支援として4教室1倉庫の教室棟を建設する贈与契約に署名をしてくれた。この結果、生徒たちは同校で学業を継続することが可能となる。日本政府の支援により、本校の生徒の能力を発揮する機会が与えられ、将来の夢をかなえる土台が提供されることになったと謝意を述べました。

西牧大使はスピーチで、「生物の多様性に富み、コミュニティー自然保護地区として認定されている美しいインパリラ島での贈与契約署名式兼起工式に出席でき、生徒や地域住民代表による歓迎（歌・踊り等）に感謝する。人材育成は日本政府の重要な対ナミビア支援の一つ。質の高い初等教育は人材育成の要であり、国の繁栄につながるもの。そのため、日本政府はナミビアにおいて草の根無償資金協力による学校教室建設を重視している。貴校は67番目の支援対象校である。本日の式典を契機として日本に興味を持っていただき、学業に励み将来、日本を訪れる生徒が現れ、両国の架け橋として活躍してほしい。また、建設業者には期日内に質の高い校舎建設を要請する。教室建設が完了し、再び貴校に引渡式のために戻ることを楽しみにしている。」と述べました。



総括



ザンベジ川を渡るメディア一行



取材中のカメラマン



移動中に遭遇した野生動物

当地メディアを伴い日本の支援現場を報道してもらうことは、ナミビアの人々に日本の支援を知ってもらうのみならず、ナミビアの人々自身に自国の地方の現状を認識してもらうという2つの重要な意義が認められます。このように、広報効果の高いプレスツアーによりナミビアにおける日本の更なるプレゼンス向上が期待できます。

広報成果

式典前に当館から当地主要報道機関にプレスリリースを発出しつつプレス関係者の式典参加を勧奨し広報に努めるとともに、3人の報道関係者を同行したところ、次の通り報道され、我が国の当地における教育分野支援のプレゼンスを一般に強く印象付けることが出来ました。

(1) 1月28日(金)NBC のプライムタイム・ニュースで日本の草の根・人間の安全保障無償資金協力による学校支援の式典内容が放映されました。

(2) 1月30日付ニューエラ紙4面記事:「学校への長い通学距離を嘆く教育大臣」。

(3) 2月22日付ナミビアン紙6面記事:「日本のザンベジ州における支援をナミビア政府が歓迎」。

今回は、教育大臣のみならず、州知事、教育・芸術・文化局長、地方議員、ナミビア大学副学長室顧問、その他関係者が引渡式に参加しました。当館主催のプレスツアーと並行して両式典が実施されたため、両式典の様子が当地電子媒体、日刊紙面、ラジオ、国営放送で広く報道されたことは広報面でも非常に有益でした。

関連リンク(外部サイト)

NBC Digital News Facebook: <https://www.facebook.com/NBCDigitalNews/>

Namibian Sun Newspaper Facebook: <https://www.facebook.com/namibiansun>

New Era Newspaper: <https://neweralive.na/posts/govt-lauds-japan-for-schools-support>

New Era Facebook: <https://www.facebook.com/NewEraNewspaperNamibia/>